

第11回

介護のいまと未来を 考えるつどい

2月9日(日) 時間: 13:30~16:30

場所: 横浜市健康福祉総合センター4階ホール

資料

＝プログラム＝

13:00～開 会 星 めぐみ (ユーコープ労組)

代表挨拶 住谷 和典実行委員長

記念講演 「あらためて介護の社会化を考える」
～利用者・家族の目線から～

講 師 鈴木 森夫氏

公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事

14:50～休 憩

15:00～パネルディスカッション

テーマ「20年の節目を迎える介護保険制度」

コーディネーター

片倉 博美 (神奈川県民主医療機関連合会)

パネラー 三橋 良博 (利用者)

(認知症の人と家族の会神奈川県支部世話人)

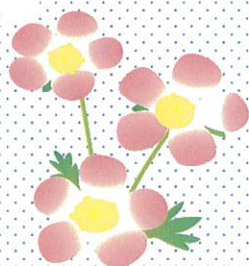
パネラー 工藤 秀雄 (事業者)

(介護事業者こみゆにてい代表)

パネラー 前田 晃一 (従事者)

(小規模多機能こすもす所長)

16:20～閉会挨拶 長嶋 理恵実行委員



後援: 横浜市・川崎市・神奈川新聞・神奈川県社会福祉協議会
主催: 第11回「介護保険のいまと未来を考えるつどい」実行委員会

<INDEX>

1~24P 鈴木森夫さん講演レジュメ・資料

25~26P パネルディスカッション・三橋良博さん資料

27~33P パネルディスカッション・工藤秀雄さん資料

34~35P 12月25日発表の介護関係5団体のアピール

36~37P 2月6日 国会院内集会 厚生労働省への要請書

36~51P 2月6日 国会院内集会 全日本民医連・林泰則氏の学習会資料

38~39P 11月11日 介護・認知症なんでも相談の内容

40~44P <広告掲載>

- メディホープかながわ
- 神奈川県医療事業協同組合セントラルキッチン
- ヒューメディカ

介護保険20年 いまと未来を考えるつどい

2020.2.9

神奈川県社会保障推進協議会

あらためて介護の社会化を考える ～利用者・家族の目線から～



公益社団法人 認知症の人と家族の会

代表理事 鈴木森夫



「呆け老人をかかえる家族の会」誕生

「おたがい、それぞれにとって大切な人である父や母や、夫や妻が、呆けてしまったその悲しみと介護の苦勞、やり場のない家族の胸のうちが、あの日、芝蘭会館に集まっていました。

家族は、もうひとりぼっちではありません。もうバラバラではありません。呆け老人をかかえたのも、人生の何かの縁です。励まして、助けあっていきましょう。

呆け老人の問題は、**現在介護中の家族だけの問題ではありません。みんなの問題なのです。社会の問題です。いま私たちは家族だけの負担と犠牲で介護をしていますが、本来もっと社会の手が差しのべられるべきです。もっと政治の光が当てられるべきです」**

「介護しているものどうしが話し合った、そのときの衝撃は忘れられません。誰にも分かってもらえないと思っていた苦勞がずっと分かってもらえます。自分よりもっと大変な介護をしている人もいました。気持ちが軽くなり、もう少し頑張ろうと言う気持ちになったのです。**苦勞している者どうしがつながることの大切さを知りました」**

「家族の会」の理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ、日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。

認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助けあって、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会を希求する。

会員・支部の現状 (2018年度)

- 2014年に沖縄県支部が設立され、47全都道府県に支部。神奈川県支部は1981年、12番目の設立。
- 会員は11,000人。さまざまな立場の人々が協力し合っています。
- | | |
|---------------|-----|
| 認知症の人、現在介護中の人 | 45% |
| 過去に介護していた人 | 19% |
| 専門職、ボランティアほか | 26% |
| 企業、団体 | 10% |

活動の3つの柱

- 交流する つどい 年間3,986回
延べ52,115人参加
- 相談する 電話相談 年間22,139件
相談員926人
- 知る学ぶ 月刊会報 本部、支部で
毎月 51,125部

「家族の会」のさまざまな活動

- 会員どうしの励ましあい助けあい
- 会員以外の人たちへの相談、支援
- 社会制度・認知症施策の充実を求める活動
- 調査研究活動
- 認知症への理解を深める活動
- 国際交流

認知症施策の前進に 「家族の会」が果してきた役割

- 認知症施策が皆無の時代から、要望や提言を出し、政策の実施、充実に貢献してきた(80回)
(国や自治体にほぼ毎年要望書提出—最近では、2019年3月提出—本人・家族の声を伝える)
- 国の社会保障審議会委員として、本人・家族の立場から発言、提案してきた
- 自治体へも支部が要望書を提出し、審議会や委員会の委員としての発言、要望をしてきた

1982年厚生省（当時）に対する第1回の要望書を提出

- 01 相談窓口を設置してほしい
- 02 ショートステイやデイサービスが利用できるようにしてほしい
- 03 特別養護ホームへ認知症の人も長期入所ができるようにしてほしい
- 04 寝たきりの介護者には出されていた介護手当を認知症の介護者にも出してほしい
- 05 総合的な保健・医療・福祉の研究を進めてほしい

介護保険導入の背景と危惧

- 2000年4月に、「**介護の社会化**」を掲げてスタートした介護保険制度。
- 背景に、急速な高齢化による介護ニーズの増大と家族の介護力の低下がある。
- 利用者の自己決定の尊重 「措置型サービス」から「選択(契約)型サービス」へ
- 準備やサービス不足を承知のうえで、「走りながら考える」制度としてスタート
- 「矛盾だらけのスタート」 「**保険あって介護なし**」
- 「国の負担を半減させるため」 「介護事業を営利の対象に」

介護保険制度に関する主な取り組み

介護保険制度における特定疾病として、「初老期における認知症」が取り入れられたこと

認知症の人の要介護度が低く出ることへの取り組み

認知症にとって利用しやすい介護保険サービスの実現に向けての取り組み

グループホームなどの質の向上を図るための外部評価の訪問調査員として会員が多く参加したこと

社会的な啓発活動

厚生労働省社会保障審議会介護保険部会および介護給付費分科会の委員を初めとして、地方自治体などのからの委員の委嘱をうけて、家族の立場から発言していること

2007年に「提言・私たちが期待する介護保険」を発表して、多方面からの賛同を得たこと

介護保険の変遷と「家族の会」の対応①

介護保険創設時の期待と不安(1997.12 介護保険法 成立)

- ・ 介護は家族の力だけでは限界。「介護の社会化」が必要。
- ・ 全国どこでも、必要なサービスが必要なときに、必要なだけ利用できる制度の充実を

介護保険制度、施策について初めての要望

1. 介護サービスの質量ともの充実 1999.11 介護保険に関する 緊急要望書
 2. 要介護認定での「痴呆」の認定を正しく行うこと
 3. 要介護認定機関の委員に介護経験者を加えること
 4. 施行までに国民的な合意と納得を得る努力を
- ・ 「どんな制度も最初から完璧ではない。私たちが制度を利用し、その中から声を挙げてこそ、次の改善もはかられる」

介護保険の変遷と「家族の会」の対応②

2000. 4 介護保険法 施行、サービス開始

第1期介護保険事業計画

2000. 8 介護保険に関する要望書

「骨太の方針2001」

2001. 6 介護保険1年にあたっての要望書

2002. 6 介護保険見直しに向けての要望書

2003. 4 介護報酬マイナス2.3% 改定、介護認定の見直し

第2期介護保険事業計画

2004. 1 介護保険見直しに向けての要望書

2004.12 介護保険見直しに向けての見解

- ① 負担を1割にとどめること
- ② 軽度利用者を介護保険の対象外にしないこと
- ③ 食費・居住費の負担増をさけること
- ④ 痴呆症専用の要介護認定を

介護保険の変遷と「家族の会」の対応③

2005. 6 改正介護保険法 成立
「持続可能な介護保険制度の構築」「給付の効率化・重点化」
- 2005.10 改正介護保険法 一部前倒しで施行
「食費・居住費(ホテルコスト)の保険外し」
2006. 4 改正介護保険法 全面施行 介護報酬マイナス2.4% 改定
要支援 ⇒ 要支援1・2、介護予防事業スタート 第3期介護保険事業計画
「家族の会」は、2000、2003、2005年度と3回のアンケート調査を実施、
結果を要望書に反映
2006. 6 「家族の会」名称変更 「認知症の人と家族の会」に
2006. 9 「自分の収入で最期まで生きられること」と「家族の暮らしあってこそ
介護」を訴える
- 2006.10 要支援1～要介護1までの福祉用具レンタルの利用制限実施、車いす
や特殊寝台など

介護保険の変遷と「家族の会」の対応④

- 2007.11 「提言・私たちが期待する介護保険～認知症があっても安心して
暮らせる社会に向けて～」
2008. 5 財務省「軽度の者(要介護2以下)を介護保険対象外にすれば、
2兆9000億円の経費 節減が可能という試算を発表」
2008. 6 保険の改善を求めるアピール(総会アピール)
2008. 7 認定調査項目削減についての意見書
2008. 9 「提言 こうあってほしい介護保険」出版
- 2008.10 「緊急プロジェクト報告」の実現と介護保険改善を求めるアピール
2009. 1 平成21年度介護報酬改定について(見解)
2009. 3 2009年4月実施予定の要介護認定方式についての意見書(2回)
2009. 4 介護報酬 プラス3.0% 改定 第4期介護保険事業計画

介護保険の変遷と「家族の会」の対応⑤

- 2009. 6 「提言・私たちが期待する介護保険2009年版」 高福祉応分の負担
- 2009. 6 適正な要介護認定を求めるアピール(総会アピール)
- 2009. 7 介護認定の経過措置終了 10 介護認定の再見直し
- 2010. 1 申し入れ 介護保険法の改正及び現行制度の改善について
- 2010. 6 介護保険制度改正への提言、認知症の人と家族がしあわせに暮らせる社会のために(総会アピール)
- 2010.10 介護保険制度改定への五つの危惧
- 2010.11 制度創設時の理念に今こそ立ち返るべき:介護保険制度改正のためのアピール(支部代アピール)
- 2010.12 介護保険が危ない: 介護保険の見直しに関する見解
- 2010.12 『要介護認定廃止「家族の会の提言をめぐって」』出版

介護保険の変遷と「家族の会」の対応⑥

- 2011. 4 認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書
- 2011. 6 「介護サービス基盤強化のための介護保険法等改正法案」成立
- 2011.12 再び介護保険が危ない!社会保障審議会の審議を通しての見解
- 2012. 4 「介護サービス基盤強化のための介護保険法等改正法」施行、
プラス1.2%改定、基本報酬マイナス0.8%) 第5期介護保険事業計画
- 2012. 6 明日への勇気と希望が見いだせる社会に(総会アピール)
- 2012 「**社会保障・税一体改革**」
- 2012.10 2012年4月介護保険制度改正についての見解
- 2013 「**社会保障制度改革国民会議**」
- 2013. 6 介護保険を後戻りさせないために～増税の一方で負担引き上げ・
給付抑制は道理にも合わない～(総会アピール)

介護保険の変遷と「家族の会」の対応⑦

- 2013.10 安心を保障する介護保険・社会保障制度を目指し行動しよう
～ 要支援はずし、2割負担の撤回を!～(支部代表者会議アピール)
消費税増税と負担増・給付抑制の「道理に合わない」動きが現実のものに
2014. 2 介護保険を後退させないで! ～安心できる介護保険を求める署名
の取り組み～
2014. 4 「安心できる介護保険を求める署名」64,344筆を持って厚労省に
申し入れ 認知症の場合の要介護認定改善も併せて要望
2014. 5 介護保険署名第2次分21,383筆を厚労省へ提出
2014. 6 8万7千の署名は862万人の願いを代弁した～認知症の人の介護
保険利用を保障せよ～(総会アピール)
2014. 6 「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための
関係法律の整備等に関する法律案」成立 2015「骨太の方針2015」

介護保険の変遷と「家族の会」の対応⑧

2015. 4 改正法一部施行 マイナス2.27% 改定、基本報酬マイナス4.48%
改定、特別養護老人ホームの新規利用は要介護3以上に
第6期介護保険事業計画
2015. 6 福祉が大切にされ平和であることを願う～35周年を迎えてあらため
て決意すること～(総会アピール)
2015. 8 一定以上の所得者の負担を2割に引き上げ、施設の食費・居住費
の負担軽減条件の厳格化
2016. 4 2015年の介護保険制度改定の撤回を求める要望書
財政制度審議会の「建議」
2016. 8 施設の食費・居住費の負担軽減策の所得チェックに非課税の遺族
年金・障害年金を追加

2015年改定の利用者・家族への影響

- 主な改定の内容
- **利用者には、「負担増」と「利用制限」を強化。**
- 介護報酬引き下げで、介護事業所も大打撃
- 軽度者(要支援1、2)の介護保険外し(2017年度末までに、全ての市町で訪問介護と通所介護を介護予防・日常生活総合支援事業に移行)
- 特別養護老人ホームへの入居を原則、要介護3以上の重度者に限定する(2015年4月から)
- 一定の所得以上(本人の年金額280万円以上、夫婦の年金合計346万円以上)の利用者の利用料を1割から2割に引き上げる。(2015年8月から)
- 介護保険施設の居住費と食費の補助制度(補足給付)を厳しくする。(資産要件を導入し、本人1千万円、夫婦で2千万円以上の貯蓄がある場合は対象から外す。配偶者が課税世帯の場合は対象から外す)(2015年8月から)
- ほとんど全てのサービスの介護報酬を引き下げる。(経営困難から廃業する事業所も)

2015介護保険改定についての当事者の『声』 —利用者・家族への影響調査アンケートから—

要介護3にならないと入所できなかつたら2人で生きていけない

月2.3万円の負担増。デイやショートの利用回数を減らしたが、その分自分の時間がもてなくなりイライラが増えた。睡眠不足で自分の健康にも不安。特養への入所を考えていたが、要介護3にならないと入所は難しいと聞いている。入所できなかつたら2人で生きていけない。(60代女性、夫を在宅で介護中)

在宅介護を支援するといいいながら、全く逆の改悪をしたことに反対

本人がアルツハイマー病になってから8年余り、一貫して利用していた地域密着型の認知症デイサービスが、昨年9月に突然閉鎖となり、放り出されてしまった。慣れた施設で、やっと安定した状態になった矢先に施設を変えなくてはならなくなり、新しいデイサービスが見つかるまで、本人の精神的な同様や私の不安と金銭面の負担増が非常に苦しかった。政府は在宅介護を支援するといいいながら、全く逆の制度改悪をしたことに反対だ。(70代男性、妻を在宅で介護中)

本人や家族が死を選ぶことのないようにしてほしい

妻を介護している私も透析患者で、いつ入院になるかもしれないので不安。入所特例についても、詳しくわからないので働きかけもできない。要介護1でも入所できる制度に戻してほしい。本人や家族が死を選ぶことのないようにしてほしい。(70代男性、要介護2の妻を在宅で介護中)

2015介護保険改定についての当事者の『声』 —利用者・家族への影響調査アンケートから—

今回の改定は、介護を続ける気力さえ失うもの

月8.2万円の負担増。2倍になり、ショックで体調を崩した。入所費用が払えないので、全個室の施設から多床室の施設に移ったが、それでも13万円かかる。不足分は、自分の給料から補てんしているが、このままだと家族の生活も破綻してしまう。施設に入所していても気の休まる時はなく、今回の改定は、介護を続ける気力さえ失わせるもの。(60代女性、若年性アルツハイマーで要介護5の夫が特養入所中)

財政難の名のものと介護保険の改悪ばかりで、国民は不安しかない

月4.3万円の負担増。これ以外にも保険外負担がある。この先何年続くかわからない介護生活。夫の年金で生活していかなければならない。預金が底をついたら、自分の生活がどうなるか不安でいっぱい。それにしても、軽減措置を受けるためには、預金通帳のコピーを提出しなければならないというのは、高齢者のプライドを踏みにじるもの。申請を断念する人もいと聞いている。介護の現状を正しく認識して、今回の改定はぜひ再考してほしい。財政難の名のものと介護保険制度の改悪ばかりで、国民は不安しかない。毎日のように特養を訪れて身の回りの世話をしているが、介護現場のマンパワーの質も量も乏しいことにショックを受けている。(60代女性、若年性アルツハイマー病で要介護4の夫が特養入所中)

生産に役立たない認知症の人にも人権がある

月3.4万円の負担増。節約して家計をやりくりしている。今後、もっと負担が増えたら、やっていけなくなる。「福祉重視」と言って消費税増税しておきながら、実際には負担が増え、施設への報酬も少なくなっていて、職員も集まらず、サービスも低下している。生産に役立たない認知症の人にも人権がある。夫が与えられた生命を全うできるように配慮してほしい。(70代女性、要介護5の夫が特養入所中)

介護保険の変遷と「家族の会」の対応⑨

- 2016.8 認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書(2016年版)
「骨太の方針2016」、「ニッポン一億総活躍プラン」介護離職ゼロの
実現、「日本再興戦略20016」
- 2016.11 さらに給付抑制と負担増は介護保険崩壊の道～安心できる介護
保険制度を求めるアピール(支部代表者会議アピール)
「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部
- 2017.3 介護予防の訪問介護と通所介護の「介護予防・地域支援総合事業」
への移行完了
- 2017.5 「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正
する法律案」成立
新オレンジプランを法律の中に位置づけたことは、唯一評価できる
- 2017.6 学びと交流を進めた国際会議を力に改めて「介護の社会化」を強く
求める(総会アピール) 「骨太の方針2017」

介護保険の変遷と「家族の会」の対応⑩

2017. 8 介護納付金に対する「総報酬割」の導入、**高額介護サービス費の負担上限額の引き上げ**
- 2017.11 介護の実態を無視した報酬引き下げ・利用制限に反対する～介護報酬を引き上げ、本人・家族が安心して利用できる制度を求める～(支部代表者会議アピール)
2018. 4 「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」施行 成果に応じた財政支援、共生型サービスの創設、福祉用具の見直し、訪問介護の生活援助の人員基準の緩和、診療報酬・介護報酬同時改定
第7期介護保険事業計画
2018. 6 認知症の人と家族が実りある人生を送れるよう介護保険制度の改善・充実を求める(総会アピール)
2018. 8 **現役並み所得者の利用料「3割」化**
- 2018.10 一律2割負担導入反対！社会保障最優先の道への転換を～介護保険の負担増と利用制限の流れを止めよう～(支部代表者会議アピール)

介護保険の変遷と「家族の会」の対応⑪

2019. 3 「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書(2019年版)」9省庁に提出
2019. 6 「憲法25条の理念に立ち返り、認知症になっても安心して、いきいきと生活できる明るい未来を」(総会アピール)
2019. 7 「消費税増税の上に、原則2割負担導入は絶対に認められない～これ以上利用者負担が増えれば、生活も介護も立ち行かない～」
(介護保険の次期改定に向けての緊急アピール)
2019. 10 「認知症になっても安心な暮らしを実現する社会保障を求め続けよう」
(支部代表者会議アピール)
2019. 12 「消費税増税の上に、さらに利用者を苦しめる介護費用の負担増は許されない 補足給付、高額介護サービス費の見直しに断固反対する緊急アピール」